

消費税法改正のお知らせ

令和4年4月
国税庁

令和4年4月に消費税法等の一部が改正されました。インボイス制度についての主な改正内容は以下のとおりです。

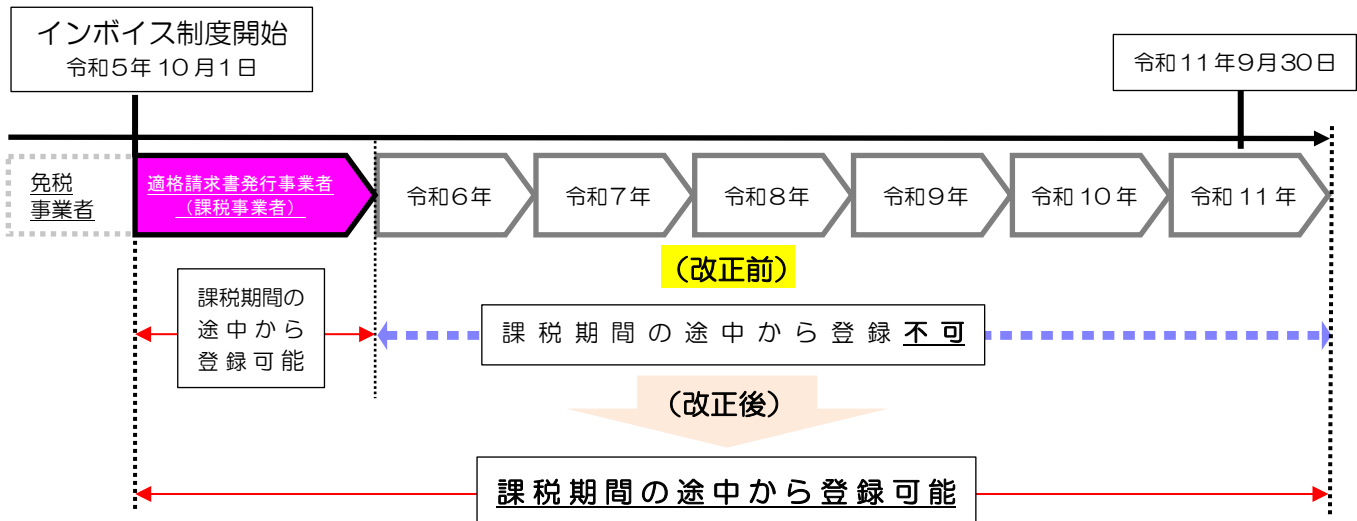
I 適格請求書発行事業者の登録に関する経過措置の適用期間の延長

適格請求書発行事業者の登録については、免税事業者が、令和5年10月1日の属する課税期間中に適格請求書発行事業者の登録を受けた場合は、登録を受けた日から適格請求書発行事業者となることのできる経過措置が設けられていますが、当該経過措置の適用期間が延長され、**令和5年10月1日から令和11年9月30日までの日の属する課税期間**においても、**登録を受けた日から**適格請求書発行事業者となることとされました。【具体例1参照】

なお、上記経過措置の適用を受けて適格請求書発行事業者となった場合、登録を受けた日から2年を経過する日の属する課税期間の末日までは、免税事業者となることはできません（登録を受けた日が令和5年10月1日の属する課税期間中である場合を除きます。）。【具体例2参照】

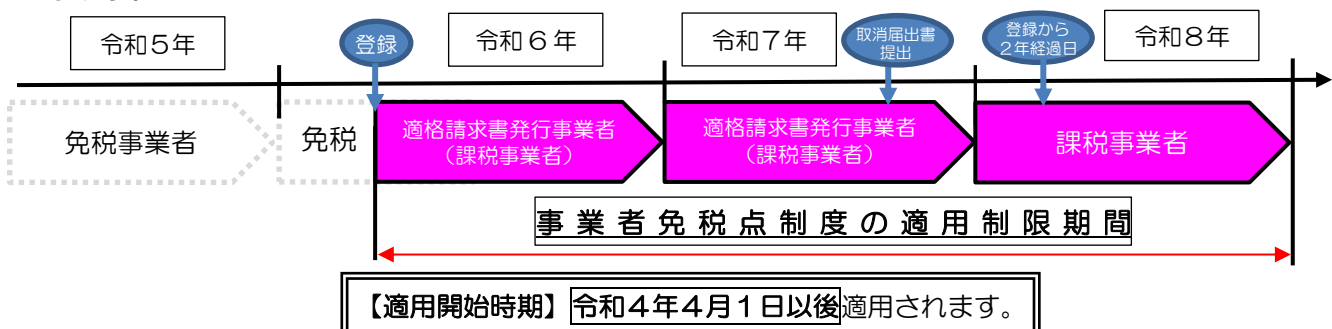
また、上記経過措置の適用を受けた場合、延長された期間においても**登録を受けた日の属する課税期間中に**消費税簡易課税制度選択届出書を提出することにより、その課税期間から簡易課税制度を適用することができます。

具体例1（個人事業者又は12月決算法人の場合の課税期間中の登録）



具体例2（個人事業者又は12月決算法人が、経過措置により令和6年2月1日に登録を受け、令和7年9月30日に取消手続を行った場合の事業者免税点制度の適用制限期間）

この場合、令和8年12月末までは免税事業者となることはできませんので、登録の取消手続（注）を行ったとしても、基準期間の課税売上高にかかわらず課税事業者となります。したがって、取消し後基準期間の課税売上高が1千万円以下となり、免税事業者となることのできるのは、令和9年以降となります。（注）「適格請求書発行事業者の登録の取消しを求める旨の届出書」の提出が必要です。



Ⅱ 納税管理人の届出を行っていない場合の登録拒否及び取消し 虚偽記載を行って登録を受けた場合の登録の取消し

納税管理人を定める必要のある特定国外事業者以外の事業者が納税管理人の届出を行っていない場合の申請についても、登録を拒否する（納税管理人を定める必要のある適格請求書発行事業者が納税管理人の届出を行っていない場合は、登録を取り消す）ことができることとされました。

また、事業者が、虚偽の内容を記載した適格請求書発行事業者の登録申請書を提出して登録を受けた場合には、税務署長は、その登録を取り消すことができることとされました。

【適用開始時期】令和4年4月1日以後の申請に係る拒否及び同日以後の取消しから適用されます。

Ⅲ 適格請求書発行事業者以外の者からの課税仕入れに係る経過措置の見直し （区分記載請求書に係る電磁的記録の提供を受けた場合における仕入税額控除）

適格請求書発行事業者以外の者からの課税仕入れに係る経過措置（80%控除又は50%控除）の適用については、売手から「書類」で交付された区分記載請求書の保存が要件とされていましたが、区分記載請求書に係る電磁的記録の提供を受け、これを保存する場合にも、経過措置の適用を受けることができることとされました。

【適用開始時期】令和5年10月1日以後の課税仕入れから適用されます。

Ⅳ その他の改正

- 仕入明細書等による仕入税額控除の適用要件の見直し
インボイス制度開始後は、買手が作成する一定の要件を満たした仕入明細書等を保存することによる仕入税額控除の適用について、売手（課税仕入れの相手方）において課税資産の譲渡等に該当するもののみが対象とされました。
- 経過措置期間における棚卸資産に係る消費税額の調整規定の見直し
免税事業者である期間において行った課税仕入れについて、適格請求書発行事業者から行ったものであるか否かにかかわらず、免税事業者が課税事業者となった初日の前日において有する棚卸資産に係る消費税額の全額について、仕入税額控除の適用を受けることができることとされました。
- 公売等において適格請求書を交付する場合の特例
公売等（強制換価手続）において、事業者（適格請求書発行事業者）が執行機関を介して課税資産の譲渡等を行う場合には、執行機関は当該事業者から適格請求書発行事業者の登録を受けている旨の通知を受けることなく、執行機関の名称及び公売等に係る特例を受ける旨を記載した適格請求書を交付することができることとされました。
- 特定収入を課税仕入れに充てた場合の仕入税額控除の調整規定が整備されました。

【適用開始時期】令和5年10月1日以後適用されます。

- お分かりにならないことや、更に詳しくお知りになりたいことがありましたら、最寄りの税務署にお尋ねください。
- 税務署での面接による個別相談（関係書類等により具体的な事実関係を確認させていただく必要がある相談）を希望される方は、あらかじめ電話により面接日時等を予約していただくこととしておりますので、ご協力をお願いします。